

## 平成29年度 第1回 大和郡山市総合教育会議

① 開催日時

平成29年9月25日（月） 午後2時45分～午後3時45分

② 開催場所

大和郡山市役所 4階 404会議室（教育委員会室）

③ 出席者

上田清市長、谷垣康教育長、牧浦温代教育長職務代理者、藤本眞喜子教育委員、  
福本宜男教育委員

以上5名

事務局12名

④ 傍聴人数

0名

⑤ 次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 出席者紹介
4. 主要政策について（平成29年度、新規事業、継続事業）
5. 学校園の現状について
6. その他
7. 閉会

⑥ 議事

○事務局 これより平成29年度第1回大和郡山市総合教育会議を開催いたします。

私、本日の進行を務めさせていただきます、総務部企画政策課の八木でございます。  
どうぞよろしくお願いいたします。

なお、石川委員から都合により、やむなく欠席される旨の連絡を受けております。

それでは、最初に上田市長から開会の挨拶をお願いいたします。

○上田市長 皆さん、こんにちは。

お忙しいところ、お集まりをいただきましてありがとうございます。

今日はさわやかな秋空になり、今週末は随分気温も下がるようです。昨日と一昨日は、市民劇団の「ちゃもり」を、あべのハルカスの近鉄アート館で、満員の中、観に行ってきました。「ちゃもり」は、西大寺を復興した郡山出身の叡尊を主人公にした歌劇でして、叡尊が大茶盛を始めるシーンで流れる音楽を、西大寺の方が実際の大茶盛の時に流そうかという話をしてくれています。お寺などもこれからは堅苦しくなく子どもたちが楽しめる場所、学べるような場所になってほしいという話を西大寺の方ともしておりました。

市民劇団の中に実は小学生が数人いまして、いい勉強になっていると思います。私の目から見ても、成長がはっきりとわかります。やはり、学校だけではなく、様々な体験を郡山の教育に生かすことができればと、改めて思っております。

本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

続きまして、本年度第1回目の総合教育会議でございますので、本日の出席者の御紹介をいたします。上田市長でございます。教育委員会、谷垣教育長でございます。教育委員会教育長職務代理者の牧浦委員でございます。教育委員会教育委員の藤本委員でございます。教育委員会教育委員の福本委員でございます。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。総務部長の西尾でございます。企画政策課の八木と笠原でございます。なお、教育委員会事務局の職員につきましては、先に定例教育委員会が開催されておりましたので、省略させていただきます。

それでは、次第に従って進めてまいります。

次第4の「主要政策について（平成29年度、新規事業、継続事業）」を事務局より説明させていただきます。

○事務局 教育委員会の主要施策について、資料に沿って御説明申し上げます。

配付資料の2ページから3ページにある教育委員会主要政策一覧表をごらんください。資料の一番左の欄に区分を記入させていただいておりますので、それに沿って主だった事業を御説明させていただきます。

まず、小学校4校、中学校1校にて、「子どもの学び」アイデアサポート事業を実施しております。子どもの豊かな心を育成するための学校独自の取り組みを各校から募集し、小学校9校、中学校2校から応募がございました。平和小学校では始業前の時間、正しい姿勢と心を整えて書道に取り組む書道教室の実施や郡山西小学校、治道小学校ではタブレットやプログラミングといったICTを活用した学力向上を目指す授業づくりの取り組みなどに対して経費の補助を行っております。

次に、現在、県下にて「国民文化祭・なら2017」、「全国障害者芸術・文化祭なら大会」が開催中であります。やまと郡山城ホール・大ホールでは、車椅子で来場の方が前方で御観覧いただけるよう、車椅子席の改修工事及び車椅子で階段移動するための昇降機を設置しております。

来年度に向けた事業といたしまして、平成30年9月からの稼働に向けて、中学校普通教室等へのエアコン設置事業を進めております。今年度は実施設計を行い、普通教室、特別支援学級、専科の教室合計138教室を対象としてリース方式にて、平成30年の夏休み期間に工事予定でございます。

次に、ICT環境の整備についてでございます。小・中学校に設置しておりますパソコン教室のパソコンの保守が平成32年1月に終了いたします。改訂予定の次期学習指導要領におきましても、教育の情報化の3つの柱として授業でのICT活用、情報活用能力の育成、校務の情報化が掲げられており、本市におきましても状況に応じた段階的な整備を進めていく必要があると考えております。

次に、継続事業としまして、特別支援教育指導員の派遣事業につきましては、特別に配慮を要する児童・生徒数の増加、必要な支援のあり方が多様化する中で、学校生活において介助や支援を行う支援員を配置しているもので、平成29年度は小学校11校に32名、中学校5校に9名を配置しております。

次に、学校図書館支援につきましては、平成28年度より郡山東中学校を拠点として図書館司書を1名配置、今年度はさらに1名増員し、学校図書室の開室支援あるいは授業での図書室の利用などといった活用を進めていくものでございます。

次に、小・中学校の学校給食事業についてでございます。平成27年4月からの小学校給食センターあすなろの運営開始により、小・中学校での完全給食実施を始めて2年半が経過いたしました。郡山産の食材を使用した給食の提供といった地産地消事業、栄養士による食育指導、給食センターの社会見学、給食を通じた食育推進事業、

乳・卵・落花生の3品目の除去食や代替食を提供する食物アレルギー対応給食の提供といった取り組みを引き続き行うことにより、安全な給食が提供できるよう努めているものでございます。

私のほうからは以上でございます。

○事務局 続きまして、今年3月に新学習指導要領が示されましたので、この内容について資料に基づき説明をさせていただきます。

まず、お配りしている資料は、今後の改訂に向けたスケジュールでございます。

グローバル化や人工知能の発達などへの対応から授業のあり方が大きく見直されています。

新要領は幼稚園が平成30年度、小学校が32年度、中学校が33年度から全面実施されます。脱ゆとりを掲げ、40年ぶりに授業時間を増やした前回平成20年改訂の内容を維持した上で、公共の精神や道徳心などを重視した平成18年施行の改正教育基本法の理念が、より反映された内容となっています。

今回の改訂案のポイントは小学校の英語で、歌やゲームなどを通じた外国語活動の開始を、現行の小学校5年生から小学校4年生に早め、聞く、話すを中心に年間35コマ、週1コマを充てます。小学校5年生からは教科書を使う正式な教科、外国語科に格上げされ、読む・書くを加えて、授業時間を年間70コマに倍増させています。この結果、小学校3年生から小学校6年生の授業時間は、各学年35コマずつ増えております。平成31年度までの移行期間として29年度中に教材配布や教員研修を進めてまいります。

また、情報活用力を重視し、小学校ではコンピューターを動かすための指示を体験するプログラミング教育も必修科目になります。

一方、今回の改訂では何を学ぶかが中心だった従来の指導要領を転換し、何ができるようになるのか、そのために何をどのように学ぶかを明確にしています。答えのない問題に挑む力をつけさせるなど、先生が一方向的に教える形ではなく、討論やグループ活動などを通じて主体的、対話的に深い学びへの工夫を求めています。

また、国家を意識させる内容も盛り込まれています。小学校5年生の社会では竹島、北方領土、尖閣諸島が我が国固有の領土であることに触れることが明記されたり、中学校の地理では、既に記載のある北方領土に加え、竹島と尖閣諸島が日本固有の領土であり、尖閣諸島について領土問題は存在しないことも扱うとしています。

一方、教員の長時間勤務が指摘される中、学校現場の負担は増すことになり、質と量

を両立させられるかが今後の課題となります。平成20年の改訂に比べて、分量は約1.5倍になっております。

以上でございます。

○事務局 ただ今、次第4について説明をさせていただきました。各委員の皆様から御意見等あればよろしくお願いいいたします。

○藤本委員 始めに、市長がおっしゃった演劇というものは、要するに自分以外の人間になってその心を感じるという、人権的なことも含めて大変効果があるという話があります。大規模なものでもなくていいので、そういう部分が教育の中に取り入れられるのはいいことだなと思います。

○谷垣教育長 やはり指導する人といいますか、人材が大事になってきます。

○藤本委員 例えば、ICT関連では、奈良県内のコンピューターの導入が全国的に見ても低いかなと思うのですが。

○谷垣教育長 奈良県は下位のほうです。

○上田市長 演劇では、舞台上への出入りの際に、舞台裏で衝突したりすると事故につながるので、整然と出入りすることを学ぶそうです。つまり、自分だけが目立とうとするのではなく、相手のことを思いやり、ルールを守ることにより、チームワークができてくわけです。色々なところに学ぶ場はあると思います。

○事務局 それでは次第5の「学校園の現状について」を事務局より説明させていただきます。

○事務局 現在はICT化が進み、テレビやパソコン、スマートフォンなどを通じて簡単に情報を知ることができる時代になっております。だからこそ、市立幼稚園では地域の力を借りながら、子どもたちの五感を通して直接体験することを重要視しております。直接体験する中で様々なことを感じて、心豊かな子どもに育ててほしいと願っております。

また、子どもの体力のなさも感じられることから、各幼稚園では元気な体づくりを目指し、朝一番にみんなで体操をしたり、マラソンなどにも現在取り組んでいるところでございます。

小・中学校では、「子どもの学び」アイデアサポート事業として各校からアイデアを募集した結果、11校から応募があり、そのうち5校を実践校として認定し、事業を進めていただいております。自校だけではなく、アイデアサポート事業を認定された学

校から他の学校に発信して、ともに参加していただいているというような事業もごさいます。

各学校では新学習指導要領を見据えて、みんなで話し合ったり、発表したりするアクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に進めているとともに、地域人材を学習指導にも活用しながら、例えば公民館クラブ等との連携なども行い、また、子どもの生きる力を育む学習指導に取り組んでいます。中には、地域の方々を学校に招いたり、時には地域に出かけて地域の方々と交流し、地域一体となった取り組みを進めております。

現在、生徒指導に関しては大きな問題はなく、比較的落ちついている状況でございます。また、1学期終了時点での不登校生徒数から、現在は幾分回復しているように思われます。不登校生徒の支援や不登校の未然防止の取り組みについては、引き続き課題であると認識し、各校で丁寧な対応を行っているところでございます。

なお、本年度の大きな取り組みとして、交通事故や犯罪などで犠牲になった方の等身大パネルと遺品を通じて、命の大切さを考える機会となるよう5中学を巡回する「生命のメッセージ展」を実施いたしました。子どもたちが、日常生活の中で自分や家族、友人を大切にし、いたわる気持ちを育て、学校においてははじめを許さない態度を育む大きな意味を持つ取り組みであったと考えております。

以上でございます。

○事務局 ただ今、事務局より次第5について説明をさせていただきました。各委員の皆様から御意見等ありましたらよろしく願いいたします。

○藤本委員 それでは、3点よろしいでしょうか。まず、幼稚園のことですが、今後、ますます子どもの人数が減少していく状態が続いていくと思われまます。5年、10年先のことを見通して、今後の幼稚園教育といえますか、いろんな状況に対応できるよう、こども園への移行も含めて、御検討を早期に進めていただきたいということがまず1点目でございます。

続いて、「子どもの学び」アイデアサポート事業は大変素晴らしい取り組みであると思ひます。先生達のやる気も出てくるでしょうし、ぜひともこの事業に関しましては今後も継続していただきたいということと、支援がなければ進められない事業に関しましては、支援終了後も御配慮のほどをお願いいたしたいというのが2点目でございます。

次に、今年度、学校訪問をさせていただいた中で、幼稚園の耐震化工事をしていただきました結果、心なしか先生や園児たちも大変喜ばしい表情をしていると感じ、大変うれしく思いました。本当にありがとうございました。小学校を訪問させていただいた時は、片桐西小学校で外壁の工事に取り組まれていました。順に補修工事を進めていかれると思うのですが、他の小学校で教室や廊下の壁を見せていただいたときに、この環境で教育を受けるのはどうかと思うときもありました。費用や効果を考慮し、補修工事をしていただけたらと思いました。

お願いばかりで申しわけありませんが、よろしく願いいたします。

○事務局 10年から15年先のことで言いますと、市内では幼稚園だけでなく、6つの小・中学校で、1学年1クラスになると予想しております。

具体的に言いますと、治道小学校、平和小学校、矢田小学校、矢田南小学校、筒井小学校、郡山東中学校でありまして、10年から15年先を見据えた小・中学校、幼稚園の適正配置について、来年度以降、検討していく必要があると考えております。

また、将来の幼稚園のあり方ですが、幼児教育についてのニーズがどうなっていくのかということが重要です。多分現状のままであれば、こども園や私立幼稚園のニーズが高まっていく可能性は大きいですし、そうなると市立幼稚園の売りのようなものを創っていかねばならない、我々だけでなく、現場の先生達が考えてもらう必要があるのではと思っております。

「子どもの学び」アイデアサポート事業の継続については、今回5つの事業を認定したわけですが、同じ事業に毎年支援が必要という状況はいかがなものかと考えております。初期費用は支援するとしても、例えば今回の平和小学校の書道教室であれば、畳などは地域の方に御寄附いただき、講師の方も無料をお願いしていることから、地域と連携できる形が一番いいのではと思います。もちろん必要な費用の支援は大切ですが、お金だけではなく、事業を通じて地域の人とのつながりを広げていくことも大切ではないかと考えております。

○谷垣教育長 今年度は5校でしたが、ほかの学校でまた、新しいアイデアが出てくれば良いなと思います。

○藤本委員 自分で考えたことを酌み上げていただけるのは、先生達のやる気も起こるでしょうし、大変いいことだと思いました。

○福本委員 ICT関連の教育についてですが、以前からきちんと進められていると思

ますが、学校訪問では、ICT教室が古くなり、活用されないままの部屋になっているところもを見せてもらいました。新しいシステムづくりが急務ではないかと思います。ただし、パソコンを新しくすれば、子どもは興味を持つかというところではなく、タブレットなどICT機器もどんどん変わってきていますので、先生達の対応もすごく難しくなっています。先生の負担ということも考慮しながら、ICT化をどのような形で再構築していくのかということが1つの問題かなと思います。

もう一つは、道徳の教科化という問題です。いよいよ平成30年度から小学校が、31年度から中学校が始まるという中で、これは全国的な問題でもありますが、郡山として道徳にどのように取り組んでいくのか、先生や地域社会を巻き込んでいくことも考えていかなければならないので、その辺をお聞かせください。

○事務局 道徳につきましては、今や聞くだけの授業だけではなく、子ども達が自ら考えて、より良い生き方であるとか、他人との関わりについて答えを導き出していくものですので、指導する先生の力量というものがすごく問われると思います。それは、ICTでも一緒ですが、先生の資質の向上、例えば研修に積極的に出ていただき、個人の能力を高めていくことが、ますます求められますので、その辺も力を入れてまいります。

○上田市長 道徳については、教科書で教え込む、伝えるというのは、余り意味がないのかもしれないですね。体験が大事です。だから、子ども達にどれだけの体験をさせてあげられるか、また、体験の中身が問われていくだろうなと思います。郡山らしい体験をさせてあげられたらいいですね。

○藤本委員 今の幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが社会人になるのが、10年、20年先のことになるわけですが、自分が働いていたころの業務が色々と、機械化されてしまっており、今から10年、20年先は、もっと人の力を介さずに、機械がしてしまうという時代になってしまうことは、今の時点でも想像ができます。そうすると、子ども達にどんな力を付けてあげることが今、大事なのかということになり、教育の現場では、そこを踏まえながら進んでいくことが必要ではないかと思います。

自分も小学校、中学校で習ってきたことは、卒業後にはほとんど覚えていないことも多いのですが、部活動とか自分が身を挺して取り組んできたことは、今の自分に活かされているような気がしています。だから、子ども達に必要な力というのは、まず意欲ですね。やる気とか忍耐力とか自分を制する力とか、そういう力を付けていくこ

とが、今まで以上にもっと必要になってくるのではないかと思います。

今の時代の子ども達を、今いる先生方が、どう育てていかれるのかということですが、教育の現場では、郡山も御多分に漏れず、40歳代のミドルリーダーがおられず、20歳代の先生が大半を占めています。現実の問題として、若い先生がこれからの将来を見据えた教育を子どもたちにどう施していってもらえるのか。

だから、ぜひとも郡山の先生達の学ぶ場を充実させてほしいです。子ども達を育てるためには、やはり先生自身が学ぶという姿勢、色々なことを体験しながら生きていくという人間力というのが、大事だと思うんです。ぜひ、そういう方向に進んでいけるような環境づくりといたしますか、先生が学べる場所を作っていないと、若い先生達が自分たちの力だけでは、これからの学校教育を支えていくということが、なかなか至難の技ではないかと気にしております。大変大きな問題だと思いますが、市として取り組んでいく大きな柱に据えていただきたいと思います。

○事務局 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

それでは次に、次第6「その他」でございます。

この機会でございますので、委員の皆様、本日の議題に関わらず何かございましたら御意見いただけましたら、よろしく願いいたします。

○上田市長 発明くふう展で賞を取った小学生の考えたテープカッターがありまして、はがす時に便利なつまみ部分ができるものなんです、これはお母さんの悩みを何とかしてあげたいということがきっかけだったそうです。悩んで、これを何とかしたいという気持ちをかき立てられたことが、子どもを動かしてきたんでしょうね。だから、今の時代にも、子どもなりに悩み、そして考えることが大事なことはないかと思えます。大人が問題解決するのは簡単ですが、子どもが悩み、考えることを大人が全部摘み取ってしまうと、楽にすることが果たして良いことなのか。

あるいは、高等学校教育の無償化ですが、あるところで、親は歯を食いしばってでも、しんどくても子どもに教育を受けさせるために、自分のお金で何とか子どもを高校に行かせたいと思っているのに、無償化と言われたら、親は要らないということかという意見を耳にしました。これは、一面的な意見だと思いますが、納得してしまう部分もあります。確かに、苦勞せずに楽にはなるでしょうが、苦勞を全部摘み取っていいものなのかとも思います。

また、医療費助成制度では、現物給付と言いまして、要するに病院の窓口でお金を払わなくてもいいような方法が全国的な流れになってきています。そうすると、ちょっと調子が悪くなるとすぐに病院に行き、気軽に無料で薬をもらいに行くような感覚になっていけば、例えば、おばあさんから教わったような民間療法が伝えられていくということもなくなっていくのかもしれませんが。

人間は自然治癒力であったり、問題を何とかしよう、解決しようというエネルギーを元々持っているはずで、生きていくということは、身の回りにあるたくさんの問題に対して工夫することの連続であると思います。

○谷垣教育長 ものごとを考えさせる力をつけることは、教育で大切なことです。だから、道徳にしても、こうなさいよという説明だけではだめです。子ども達だって良いこと悪いことはわかっています。わかっていることを教えられるというのは一番つまらないことです。

○福本委員 教えることが決められて、採点するようになれば、道徳が悪い方向に進むかもしれないですね。

○谷垣教育長 10年後、20年後の将来のために、どれがいいのだろうということを自分たちで考えていく、そして自分の意見を持つという子を育てていくことが大切です。

○福本委員 経験からしか感じられない思いやり、経験からしか感じられない協調というものは必ずあります。教えてもらっても、やはり体験してみないとわからないです。だからサマーキャンプのような体験学習も良いと思います。

○藤本委員 郡山も核家族化が進み、人口が減って世帯数が増えているという現状を聞いたときに、文化や伝統など昔のことが伝わりにくいということがあるので、保護者の方もそれに対する危機感を持っておられると思うんです。だから、何かが体験できるような企画が子どもにとって必要だと思います。

○上田市長 結論が出ないものを議論するというのもいいのではないのでしょうか。例えば、なぜ人間を殺したらだめなのか、と議論をさせる。なぜかと問われれば、私達大人でもだめなものはだめとしか言いようがないですが、突っ込んで考えていくと、すごく深いと思うんです。じゃあ、動物は殺していいのかという話になっていくし、でも人間は他の動物を食べて生きてると話が広がっていくし、すごく深い議論になっていくと思います。

○藤本委員 そういうことを子どもたち同士が話し合うプロセスが大事ですね。

○谷垣教育長 これからは、A I の時代になっていくし、A I を使いこなす力もつけていかなければならないですが、A I にはできず人間しかできないこととは何なのかというを考えさせ、できるようになる人間を育てていくということも大事ですね。

○上田市長 例えば子ども達に、真夏に一日停電したらどんなことが起こるか想像してくださいと言うと、色々な意見が出ると思いますよ。家のそれぞれの個性も出てくると思いますし。大人は普段想像したこともないでしょう。

○福本委員 子ども達からは意見がたくさん出るかもわかりませんね。

○上田市長 命とか、人間の根本に関わるような話をさせてあげたいです。

○藤本委員 そうですね。

○福本委員 道徳の時間は、そういうことをさせてあげたいですよ。

○上田市長 教員時代の話ですが、昔、授業を生徒にさせたことがあります。各自で調べさせて、1時間を自由に使えと。そうすると、色々とおもしろい子が出てきます。紙芝居を作ってきた子なんかはいまだに印象に残っています。

○藤本委員 本当の生きた勉強ですね。結局、知識の提供だけでは、生きた勉強につながるかという難しいですね。

○谷垣教育長 一度、中学生と小学生が市長と直接話をする機会をつくりませんか。

○藤本委員 いいことですね。

やっぱり楽しいっていうことが基本ですね。先生も子どもも楽しい、そうでなきゃ始まらないと思います。

○事務局 他にございませんか、よろしいでしょうか。

それでは、以上を持ちまして本日の会議事項は全て終了いたしました。これにて閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。